

アイン・ランド PLAYBOY インタビュー要旨

2018年2月10日 日本アイン・ランド協会 佐々木一郎

※頁番号は ARCJ Web 掲載 PDF http://aynrandjapan.org/pdf/playboy_interview.pdf (2018年2月2日発行) のものです。

頁	段	テーマ	トピック
2	2	形而上学・倫理学	『肩をすくめるアトラス』は新しい哲学(=オブジェクティビズム)を提示している。ランドはこの哲学で何を指しているか。この哲学の基本原則。主人公ジョン・ゴルトの宣言が示す倫理と、基本原則の関係。
	3		オブジェクティビズムの基本原則から導かれる倫理。「原罪」という観念への批判。
3	1	人生論・認識論	目的を持たないことが究極の墮落である理由。
	2		自尊心に欠ける人物の行動。
	3		人生の目的を確定すると世界がせばまらないか。極端な合理主義は人生から潤いを奪わないか。
	4		感情は無視すべきものなのか。
4	1		人との絆を自分の生産的仕事より上位に位置づけるのは不道徳なのか。女性も仕事中心に生きるべきか。
	2		合理的人物にとっての恋愛の位置づけ。
	3	性道徳	愛においても自己犠牲は悪なのか。
	4		セックスが不道徳であるのはどのような場合か。婚外交渉は不道徳か。快楽主義に反対する理由。
5	1		セックスと自尊心の関係。
	2		セックスは非理性的で生物学的な本能ではないのか。
	3	イデオロギー論	理性といわゆる衝動の関係。中庸は悪なのか。
	4		オブジェクティビズムはドグマではないのか。
6	1	宗教論・お金(株)論	神の存在を信じるか。ドルマークが象徴するもの。十字架が象徴するもの。
	2		宗教は建設的な価値を提供してこなかったのか。
	3	人生道徳	慈善は不道徳か。正当な同情と不当な同情。自分の身を犠牲にして他人を守るのは不道徳か。
	4		人間はどう生きなければならないか。
7	1	芸術論	ランドが現代の多くの芸術家と相容れない理由。現代文化は自然主義のどん詰まり。ロマン主義の真髄とは。
	2		現代文学への評価。尊敬するのはユーゴー。ミッキー・スピレインが好きな理由。
	3		フォークナー、ナブコフへの評価。ランドは哲学のために小説を書いたのか。『アンセム』主人公の宣言は無政府主義ではないのか。ランドにとっての自由意志。
	4	法制論	合理主義者が服する唯一の権威。合理主義者にとっての法律。政府の適正な機能。自由社会における強制力。自由社会における税。
8	1		徴兵は正当化されるか。自由社会における郵便・道路・学校等の運営。
	2	目下の米国政治	自由主義国が独裁国を侵攻するのは正当か。米国はキューバやソ連を侵攻すべきか。
	3		米国は国連を脱退すべきか。ソ連と国交断絶すべきか。核実験禁止条約への立場。大統領候補としてゴールドウォーターを支持するか。
	4		ニクソン、ジョンソンへの評価。ランドの政治的立場。米国の保守論壇への評価。
9	1		米国の反共団体への評価。
	2		陰謀論を支持しない理由。ランドが支持する政治団体はないのか。ランド自身に政治的野心はないのか。
	3		ランドが政治に関心を持つ唯一の理由。『肩をすくめるアトラス』のような「頭脳のスライキ」を現在のアメリカで決行すべきか。
	4		どのような社会になったときに「頭脳のスライキ」を決行すべきか。社会改革のため今なすべきことは。
10	1		利他主義の定義。オブジェクティビズムが米国思想の本流から外れているという批判への回答。
	2	未来への展望	オブジェクティビズムは将来世界を席卷するか。
	3		人類の未来を楽観するか。その理由。偉大さへと向かう人間の潜在力。

以上